

『団体戦の勝ちの内容差について』 = 1対1の場合 =

例えば、3人制の団体戦で、先鋒戦はAの選手が勝ち、次鋒戦はBの選手が勝ち、大将戦は引き分けとします。

勝ちの内容の例	A 中学校		$\begin{matrix} 1 & - & 1 \\ (\text{有効} 2 & - & \text{有効} 1) \end{matrix}$	B 中学校	
	= 例 1 = 『有効と有効』の場合	先鋒戦	有効 2	⊖ — △	次鋒戦
中堅戦		負 け	△ — ⊖	中堅戦	有効 1
大将戦		引き分け	× — ×	大将戦	引き分け
判 定	通例【引き分け】… 有効数までは数えず、有効の勝ちに優劣をつけない場合。一般的な申し合わせ。 例外【Aの勝ち】… 有効数まで数え、得点として計算する場合。申し合わせ事項としては、例外的。				

勝ちの内容の例	A 中学校		$\begin{matrix} 1 & - & 1 \\ (\text{有効} 1 & - & \text{僅 差}) \end{matrix}$	B 中学校	
	= 例 2 = 『有効と僅差』の場合	先鋒戦	有効 1	⊖ — △	次鋒戦
中堅戦		負 け	△ — ⊕	中堅戦	僅 差
大将戦		引き分け	× — ×	大将戦	引き分け
判 定	【A中学校の内容勝ち】 Aの先鋒（有効1）は、Bの次鋒（僅差）よりも、優位になる。				

勝ちの内容の例	A 中学校		$\begin{matrix} 1 & - & 1 \\ (\text{指導} 3 & - & \text{指導} 2) \end{matrix}$	B 中学校	
	= 例 3 = 『僅差と僅差』の場合	先鋒戦	指導 3	⊕ — △	次鋒戦
中堅戦		負 け	△ — ⊕	中堅戦	指導 2
大将戦		引き分け	× — ×	大将戦	引き分け
判 定	【引き分け】 AもBも僅差なので、引き分け。指導数に差があっても、僅差に優劣はない。				

『団体戦の勝ちの内容差』について、検討してみましょう。

先日（平成28年4月17日）、仙台市春季大会（中学生の団体戦 ⇒ 中総体の前哨戦）が開催されまして、その際に、上記の3例について、宮城県柔道連盟・A審判員（平間先生）、中体連・A審判員（藤嶋先生）、中体連・記録部長の各先生方に、ご解説頂きました。

特に、例1の『有効と有効』の場合には、それぞれの大会の申し合わせ事項に、判定法・運用に特徴がありました。中体連の記録部長のお話では、有効と有効の場合には、『引き分け』とするとのことでした。理由は、記録係は中学の生徒に担当させているため、団体戦の場合、有効の数まで正確に把握・記録させることは困難とのことでした。

また、その運用および判定法については、平間先生（宮城県柔道連盟・A審判員：七段）も、同様の見解・解説でした。記録係の担当者が、中学生や保護者等の場合、個々の判定や審判規定の細目までは把握していないため、有効数まで得点化しようとする、正確な評価・記録を均一に保つのは困難となり、結局は混乱を生じさせる要因になります。

例えば、三段・四段クラスの審判員の先生が、記録係を担当した場合は、有効数を正確に把握・維持し、大会の運用にも十分耐えられると思います。しかし、地方の大会では、その運用を採用することは、実質的に困難なのでしょう。ハイレベルの大会では、例えば、一本10点、技有5点、有効3点、僅差1点として、計算することもあるようです。

団体戦の申し合わせ事項について、例示してみます。

『マルちゃん杯』・『全中』のいずれも、有効と有効との場合は、それぞれの有効数の評価については記載がないため、判定法が分かりにくいですね。しかし、有効数まで得点化して判定するとの記載もないことから、やはり慣例として、有効と有効の場合には、それぞれの有効数までは考慮・得点化せず、『引き分け』として判定すると考えられます。

第29回マルちゃん杯東北少年柔道大会実施要項

- 9 試合方法
- (1) 試合方法は、各部ごとのトーナメント戦で行う。
 - (2) チーム間の勝敗は次のとおりとする。
 - ① 勝者数の多いチームを勝ちとする。
 - ② ①で同等の場合は、「一本」（それと同等の勝ちを含む）による勝者数の多いチームを勝ちとする。
 - ③ ②で同等の場合は、「技あり」による勝者数の多いチームを勝ちとする。
 - ④ ③で同等の場合は、「有効」による勝者数の多いチームを勝ちとする。
 - ⑤ ④で同等の場合は、代表戦で勝敗を決する。

平成27年度全国中学校体育大会 第46回全国中学校柔道大会要項

12 競技方法 (1) 団体戦

- ①男女とも、参加48チームを3チームずつ16組に分け、各組でリーグ方式を行い、各組の1位16チームによって決勝トーナメント方式を行う。
 - ②男子は1チーム5人制、女子は1チーム3人制により試合を行う。
 - ③チーム編成は、男女とも体重の重い者を大将とし、以下順次体重順とする。交代の選手と入れ替えた場合においても、同様に体重順とする。試合毎の選手位置の入れ替え及び一度退いた選手の再出場は認めない。
- ※選手変更は、基本的に前試合開始までに所定の場所にて受け付ける。
- ④試合時間は3分間とし、代表戦における延長戦(ゴールデンスコア)は無制限とする。
 - ⑤優勢勝ちの判定基準は、「有効」以上又は「僅差(『指導』の差2以上)」とする。
 - ⑥優劣の成り立ちは以下のとおりとする。

「一本」＝「反則勝ち」>「技あり」>「有効」>「僅差」

- ⑦リーグ方式では、チーム間の内容が同等の場合は引き分けとする。また、リーグ方式の順位は次の方法によって決定する。
 - ア チーム間における勝ち、引き分け、負けの率による。
 - イ アにおいて同等の場合は、勝ち数の合計による。
 - ウ イにおいて同等の場合は、勝ちの内容により決定する。
 - エ ウにおいて同等の場合は、負け数の合計による。
 - オ エにおいて同等の場合は、負けの内容により決定する。
 - カ オにおいて同等の場合は、1名による代表戦を1回を行い、決勝トーナメント方式への出場チームを決定する(3校同等の場合は、代表者3名によるリーグ方式を行う)。

例2『有効と僅差』の場合(有効が優位)、例3『僅差と僅差』の場合(僅差に優劣なし)は、上表のとおりです。

団体戦の判定法については、審判規定などに詳しい内規や解説が見当たりませんが、申し合わせ事項の内容から、チーム間で接戦になったときに、監督さん同士で揉めないよう、きちんと判定・説明していきましょう。

